

質 問 回 答 (4 回 目)

2020 年 1 月 23 日

「(案件名) 19a00923 アフリカ地域IFNA全アフリカ展開に向けた情報収集・確認調査 (QCBS)」  
 (公示日: 2020年1月8日/公示番号: 19a00923 ) について、業務指示書に関する質問と回答は以下のとおりです。  
 ※ シェードは回答掲載済みのものです。

通番号	当該頁項目	質問	回答
1	11 ページ 第 2 章 3. 業務の対象地域	各国状況に関する調査の対象国(アンゴラ、エジプト、カメルーン、タンザニア、ルワンダ)がIFNA重点国以外の全アフリカから選定された経緯と理由は、何か。	TICAD7 で IFNA の全アフリカ展開を宣言しており、現時点ではアフリカの全ての国が IFNA 対象国となります。こうした考えのもと、今後、アフリカで JICA の栄養関連活動を強化する可能性がある国という観点で、調査対象国を選定しております。
2	16 ページ 第 2 章 6. 業務の項目 (16)課題別研修の帰国研修員の活動促進方法の検討	課題別研修の帰国研修員の活動促進方法について、調査事例となるルワンダ、タンザニア、セネガルから、説明書に指定された栄養関連の3研修に、必ずしも研修員が参加していない。これら3カ国が選定された理由は、何か。	6. (16)は、特定の国の帰国研修員の活動促進というよりも、多くの国で汎用性のある帰国研修員の活動促進方法を検討頂くことを主眼に置いております。こうした考えのもと、調査を効率的に進める観点から、他の調査項目で訪問する6カ国の中から、説明書に記載した3研修のうちいずれかの研修に参加した実績がある国を選定しております。
3	第2章 特記仕様書案 (p.22) 6. 業務内容 (14)NFAの効果測定(インパクト評価)のためのモニタリング調査 (p.15)	2020年1月21日付の本案件質問回答書にて、当該頁から推定される「身長計や体重計などの調査に必要な機材については…本見積りに」含めるとありますが、こちらは、定額の再委託費には含まれず、受注者が購入するという理解でよろしいでしょうか。再度ご確認いただけると幸いです。  また、受注者が準備する場合、必要な体重計等機材の	再度検討した結果として、通し番号 5 の回答「身長計や体重計などの調査に必要な機材については、発注者での購入は予定しておりませんので、本見積りに含めてください。」は、「身長計や体重計などの調査に必要な機材については、発注者での購入は予定しておりませんが、定額の再委託費に含まれ、データ取得のために必要な資機材等は再委託先が購入することを想定しております。」に訂正します。回答内容が変更となり、申し訳ございません。

通番号	当該頁項目	質問	回答
		台数について、具体的に明示頂けますでしょうか。	
4	第3章プロポーザル作成に係る留意事項(p.22) 5. 見積書作成にかかる留意事項	2020年1月16日付けで「ドバイとカタールを経由するフライトを避けた提案をお願いいたします。」との質問回答がございましたが、2020年1月17日付け貴機構のお知らせ「ペルシャ湾岸諸国への渡航、経路便利用見合わせの解除について」を受け、1月18日(土)以降の同地域への業務渡航と、経路便利用が可能とされました。 これを受け、本案件の提案書においてドバイ、カタールを経由するフライトの利用をご提案しても問題ございませんでしょうか。	1月16日付回答、本回答書通番号22の質問に対しては不可と回答していましたが、情/勢の変化により、ドバイ、カタール経由フライトの利用について、ご提案いただいて結構です。
5	企画競争説明書、P.20 2. 業務実施上の条件 (2)業務量目途と業務従事者構成案 2)業務従事者構成案	渡航回数は延べ16回を想定していますとあります。渡航経路によって航空賃に大きな違いが出る場所、予定価格推定のため、以下の点につきまして貴機構で用いられた想定についてご教示下さいませんか。 1) 渡航回数16回の内訳 2) それぞれの渡航の経路	以下のとおり想定しております。 1) 渡航回数16回の内訳 ・業務主任、援助協調:各々3回 ・副業務主任、農業/食料安全保障、保健/栄養、水・衛生、世帯調査:各々2回 2) それぞれの渡航の経路 ・具体的な経路は未想定 ・各団員の第一回渡航で2か国、第二回渡航で3か国を周る想定。業務主任、援助協調の第三回渡航は1か国。
6	第3章プロポーザル作成に係る留意事項 5. 見積書作成にかかる留意事項(3)2)ワークショップ	企画競争説明書p.23にて、定額の見積金額として「ワークショップ開催費(1,250千円)」と記載があります。 ワークショップの開催に関連し、政府機関の職員等の参加者に対する日当・宿泊費は発生しますでしょうか。 また発生する場合、その金額も定額の「ワークショップ	ワークショップは基本的に首都で開催し、首都在住の中央省庁等の関係者の参加を想定しているところ、宿泊費の発生は想定していません。日当は発生することを想定しており、定額計上に含まれております。

通番号	当該頁項目	質問	回答
	開催費	開催費」に含まれるという理解でよろしいでしょうか。また、日当・宿泊費が発生する場合でその費用が定額の「ワークショップ開催費」に含まれない場合、各国における日当・宿泊の計上単価をご教示いただくことは可能でしょうか。	
7	指示書 12 頁 5. 業務実施方針及び留意事項 (4) 指示書 15 頁、項目 (14) において、NFA の効果測定 (インパクト評価) のためのモニタリング調査	左調査の設計は発注者とルワンダ政府が行い、データの分析は発注者が行うとされています。すなわち受注者は、効果測定用の調査票を作成する必要はなく、発注者およびルワンダ政府側が作成した調査票を用いて、調査を実施するという理解でよろしいでしょうか。一方で、指示書 12 頁の (4) では、「調査内容の詳細については、JICA とコンサルタントで密に協議することとする」とあります。この調査内容は、調査の設計も含まれますでしょうか。	ご理解のとおり調査票は発注者及びルワンダ政府側で作成します。また、調査内容に、調査の設計は含まれません。
8	指示書 15 頁、(14) NFA の効果測定 (インパクト評価) のためのモニタリング調査	『5 歳未満児の身長・体重』にかかるデータを収集することになっていますが、そのための身長計や体重計は、発注者にて購入されると考えてよいでしょうか。『同調査の設計は発注者とルワンダ政府が行う』、とありますので、ご質問いたします。	身長計や体重計などの調査に必要な機材については、発注者での購入は予定しておりませんので、本見積りに含めてください。
9	指示書 23 頁、2) ワークショップ開催日	ここで提示されている金額 1,250 千円は、1 か国あたりでしょうか、それとも 5 カ国合計でしょうか。	5 カ国合計です。
10	指示書 23 頁、(6) 旅費	現在のところ、ドバイ、カタール、アブダビ経由の航空機は利用できないことになっておりますが、本件の見積もりでは、これらのキャリアでの見積もりは避けるべきでしょうか。	1 月 16 日付回答、本回答書通番号 22 の質問に対しては不可と回答していましたが、情勢の変化により、ドバイ、カタール経由フライトの利用について、ご提案いただいて結構です。
11	企画競争説明書、P.14 6. 業務の内容 (10) 地域毎、セクター毎の既存の取り組みの取り纏め	地域毎 (県レベル) とありますが、「県レベル」とはアンゴラは 18 の province、エジプトは 27 の governorate、カメルーンは 10 の region、タンザニアは 30 の region、ルワンダは 18 の province という理解でよろしいでしょ	前者の理解です。

通番号	当該頁項目	質問	回答
		うか。それともタンザニアには 160 の district、ルワンダには 30 の district、カメルーンには 58 の division がありますが、こちらになるのでしょうか。	
12	企画競争説明書、P.15 6. 業務の内容 (14)NFA の効果測定(インパクト評価)のためのモニタリング調査	「同調査の設計は発注者とルワンダ政府が行い、データの分析は発注者が行う予定」とありますが、コンサルタントの業務は聞き取り調査の実施とデータのチェック・整理までとの理解でよろしいでしょうか。その場合、モニタリング調査結果報告書はデータの分析を伴わない報告書となりますが、その理解でよろしいのでしょうか。また、「調査の設計」に含まれる内容は、具体的にどこまでになるのでしょうか(調査地域、対象サンプルとコントロールサンプルの選定方法、サンプル数、調査票の作成など)。	ご理解のとおり、コンサルタントの業務は聞き取り調査の実施とデータのチェック・整理までとなります。報告書の内容については、通番号 19 の回答を参照ください。 調査の設計には、調査地域、対象サンプルとコントロールサンプルの選定方法、サンプル数、調査項目、介入の内容、調査スケジュールといった項目が含まれます。また同設計に基づいた調査票の作成も発注者側で行います。
13	企画競争説明書、P.16 6. 業務の内容 (16)課題別研修の帰国研修員の活動促進方法の検討	4行目では「ルワンダやタンザニア、セネガルを事例として」とありますが、6行目では「ルワンダの事例を踏まえて」とあります。「他国にも応用可能な活動促進方法や活動促進ツールを提案」する際には、タンザニア、セネガルの事例は参考にしないということでしょうか。	6行目にタンザニア、セネガルを記載漏れしていましたので、「ルワンダやタンザニア、セネガル」とお考え下さい。
14	企画競争説明書、P.16 7. 成果品等 (1)調査報告書 3)国別調査結果概要報告書	当報告書では全5か国の調査結果をひとつの報告書にとりまとめるのでしょうか、それとも国別に5部の報告書を作成するのでしょうか。後者の場合、調査では複数の国を連続して訪問することになりますので、当初の国の「調査完了後 1 ヶ月」の期間は次の国での調査中となる可能性が高いのですが、この場合も 1 ヶ月以内に当該国の調査報告書を提出するのでしょうか。	国別に5つの報告書を作成することを想定しています。提出時期は基本的には調査完了後 1 ヶ月以内を想定していますが、次の国での調査等の事情によりこれが難しい場合はご相談に応じます。
15	企画競争説明書、P.17 9. その他特記すべき事項 (2)調査を開始する国の優	「調査を開始する国の順番については、(中略)、発注者と受注者で協議の上で決定することとする」とあるが、プロポーザルで提案したスケジュールと実際の調	本案件は QCBS による選定方式です。原則提案内容に沿った調査とします。やむをえず調査工程の変更が必要な場合には協議の上変更契約の可能性もあります。

通番号	当該頁項目	質問	回答
	先順位	査行程に変更が生じた際には、変更契約で旅費やその他経費等の増額が認められるという理解でよいか（当初契約は、QCBS による選定方式に基づき当初契約は行われるが）。	
16	5. 実施方針及び留意事項 (2)	企画競争説明書 p. 12 にて「①上記（1）の MSA や NFA に基づく各国での取り組み方法を纏めた「IFNA 実施ハンドブック」の作成（2020 年 2 月頃）」と記載がありますが、「IFNA 実施ハンドブック」の概要についてご教示いただくことは可能でしょうか。	別添 1 のとおりです。
17	5. 実施方針及び留意事項 (2)	企画競争説明書 p. 12 にて「②全アフリカ向けに IFNA の進捗の紹介と IFNA 参画への呼び掛けを行うための「第二回 IFNA パートナー会合」の開催（2020 年 3 月頃）」と記載がありますが、「第二回 IFNA パートナー会合」の目的及び内容についてご教示いただくことは可能でしょうか。	別添 2 のとおりです。
18	5. 実施方針及び留意事項 (2)	企画競争説明書 p. 12 にて「③IFNA への参画を希望する国々に対して具体的な取組手法を指導するための地域研修の実施（2020 年 7 月頃）」と記載がありますが、「IFNA への参画を希望する国々に対して具体的な取組手法を指導するための地域研修」の内容についてご教示いただくことは可能でしょうか。	IFNA 実施ハンドブックの内容について、詳細に指導するとともに、同ハンドブックに基づいて、栄養改善に係る政策策定や現場での活動に係るアクションプランの作成を行う予定です。
19	7. 成果品等 (1) 調査報告書 4) NFA の効果測定（インパクト評価）のためのモニタリング調査結果報告書	企画競争説明書 p. 17 に記載されている「NFA の効果測定（インパクト評価）のためのモニタリング調査結果報告書」についてはどのような内容を具体的に想定されておりますでしょうか。  インパクト評価については p. 15 の（14）にあるとおり「同調査の設計は発注者とルワンダ政府が行い、データの分析は発注者が行う予定」であり、受注者は発注者の指示に基づき「データ収集及びデータクリーニン	ベースライン調査、エンドライン調査の概要（実施機関、対象地、対象者等）について簡潔に纏めることを想定しています。なお、同報告書の電子データには、クリーニング済みのデータを含めることを想定しています。

通番号	当該頁項目	質問	回答
		グを実施する」と理解しております。	
20	7. 成果品 (1) 調査報告書	成果品の中には仏文レポートも含まれますが、その作成にあたっての翻訳費用を見積りに計上して差支えありませんでしょうか。	翻訳費用は見積りに本見積りで計上してください。
21	第3章 プロポーザル作成に係る留意事項 2. 業務実施上の条件 (2) 業務量目途と業務従事者構成案 2) 業務従事者の構成案	企画競争説明書 p. 20 にて「渡航回数のはのべ16回を想定しています」との記載がありますが、1回の渡航は、日本を出発して帰国するまでの一連の行程（複数国の渡航であっても）を1回とするという理解でよろしいでしょうか。	ご理解のとおりです。
22	第3章 プロポーザル作成に係る留意事項 5. 見積書作成にかかる留意事項 (6)	企画競争説明書 p. 23 にて貴機構の標準航空経路を提示いただいておりますが、2020年1月9日付の貴機構のお知らせ「中東情勢を受けたペルシャ湾岸経由のフライト利用見合わせについて」により、アラブ首長国連邦（ドバイ、アブダビ）、カタール（ドーハ）への渡航、及びこれらの国を経由するフライトの利用が禁止されました。これを受け、上記のフライト以外の効率的かつ安価なフライトを当方より提案させて頂くという理解でよろしいでしょうか。	ご理解のとおりドバイとカタールを経由するフライトを避けた提案をお願いいたします。

以 上

## Concept on IFNA Implementation Handbook

## 1. Background

- IFNA has gradually materialized its original approaches for nutrition improvement through a series of activities such as workshops and project formulation in initial participating countries since its launch at the TICAD VI in 2016.
- In the “IFNA Yokohama Declaration 2019” announced at the TICAD7 in August 2019, IFNA has committed expansion of its activities to all of African countries toward nutrition improvement for all 200 million children.
- In order to introduce IFNA’s cutting edge to newly participating countries and promote effective nutrition activities on the ground toward the IFNA’s expansion to all Africa, it is necessary to develop written documents to clearly explain IFNA’s approach in a comprehensive manner.

## 2. Purpose of the Handbook

- By utilizing Multi-Sector Approach (MSA) and Nutrient Focused Approach (NFA), which IFNA has materialized and prioritized so far,
  - A) To provide guidance for policy makers and project owners to develop strategy and project concept at national and sub-national level
  - B) To provide guidance for government staff to conduct nutrition improvement activities at local level by government or development partners (e.g. IFNA SC members)

Note: Considering that there may be many cases that countries and development partners already has original strategies and approaches, the Handbook should be consisting of modules, which explain each topic, so that users of the Handbook can only refer necessary/interested topic.

## 3. Main modules of the Handbook

## (1) Basic information

- (i) Necessity of nutrition improvement
- (ii) Outline of IFNA
- (iii) Background and Purpose of the Handbook

## (2) Introduction of IFNA’s approaches

- (i) Multi-Sectoral Approach: MSA (necessity, way to apply MSA)

- (ii) Nutrient Focused Approach: NFA (necessity, way to apply NFA)
- (3) Application of IFNA's approaches at national and sub-national level (for policy makers and project owners to developing strategy and project concept)
- (i) Identification of priority nutrition issues (incl. figuring out deficiency of key nutrients)
  - (ii) Geographical targeting
  - (iii) Bottleneck analysis (identification of priority intervention, priority crops to be promoted, etc)
  - (iv) Setting target for each sector's activities
  - (v) Intervention (and budget) gap analysis by sectors and regions
  - (vi) Prioritization of interventions and target regions in each sector, by seeking for multi-sectoral intervention at the same region and timing
  - (vii) Development of concept on prioritized interventions
- (4) Application of IFNA's approaches at local level (for government staff engaging nutrition improvement on the ground)
- (i) Dissemination of necessity and way of nutrition improvement to local citizens (incl. key essence of MSA and NFA): material for dissemination will be attached
  - (ii) Confirmation of monthly availability of necessary food
  - (iii) Confirmation of standard menu of diet at local level
  - (iv) Assessment of nutrient gap (optional if quantitative diet analysis of local citizens is possible)
  - (v) Identification of additional food to fill the nutrient gap
  - (vi) Development of dietary guideline and cropping calendar

Note 1: This chapter doesn't describe details of all types of nutrition specific/sensitive intervention in a comprehensive manner, but focuses on ways of application of NFA at local level especially in the agriculture sector. As for other interventions, the Handbook just introduces links of existing material produced by DPs etc, so that users of the Handbook can refer details of such interventions.

Note 2: Usage of app in the above processes is now being developed by JICA and will be included in the Handbook.

#### 4. Way forward

- (1) 2019.9: IFNA-Sec and JICA to share concept of the Handbook to the IFNA SC members  
SC to make comments and share existing materials to be referred in the Handbook
- (2) 2019.10: IFNA-Sec and JICA to draft modules of the Handbook
- (3) 2019.11-2020.1: SC to make comments



IFNA-Sec and JICA to have trials to use the Handbook in some pilot countries

- (4) 2019.2: SC to approve the Handbook as the 1<sup>st</sup> edition
- (5) 2019.3: IFNA-Sec to use the Handbook at the 2<sup>nd</sup> IFNA Partner meeting
- (6) 2019.6-7: IFNA-Sec to use the Handbook at regional trainings
- (7) As needed: IFNA-Sec and JICA to revise the Handbook

(End)

## Draft Concept Note for the Second IFNA Partners Meeting

**Proposed date:** March , 2020 (2 days)

**Venue:** xxxxx, Addis Ababa, Ethiopia

### Background:

Food and nutrition security in Africa is one of most critical development issues in Africa. The continent has the highest population of undernourished individuals, affecting almost 21 percent of the population.

*The Initiative for Food and Nutrition Security in Africa (IFNA)* was launched by the African Union Development Agency (AUDA-NEPAD) and Japan International Cooperation Agency (JICA) in 2016 in the margins of the Sixth Tokyo International Conference on African Development (TICAD VI) in Nairobi, Kenya as a part of its implementation process. The aim of IFNA is in part to contribute to the achievement of the Malabo Nutrition targets, as well as the Second Sustainable Development Goal (SDG 2).

In May 18-19, 2017, the First IFNA Partners Meeting (the PM) was held in Addis Ababa, Ethiopia based on the launch of the IFNA to kick off the initiative with over 160 participants. The objective of the PM was; to develop a shared understanding on the IFNA with the Partners; to update the Partners on the progress in implementation of the IFNA since its launch; and to contribute to the global sensitisation of nutrition. The PM also served as a platform where the participants meet and network with new partners to share knowledge and exchange experiences that would contribute to a pool of options and solutions that contribute to the improvement of food and nutrition security in Africa.

Since the first PM, various activities were conducted in the initial participating countries<sup>1</sup> such as Preparatory Survey, IFNA Country Strategy for Actions (ICSA) Development Workshops, ICSA Consultative Workshop and so on for IFNA implementation in each country. Based on these activities, multisectoral nutrition improvement projects have been developed in some countries.

In August 2019, IFNA Yokohama Declaration 2019 was adopted during the IFNA Side Event at TICAD 7 in Yokohama, Japan. In this side event, African governments together with various stakeholders in nutrition were called upon to strengthen actions that would help in the prevention and elimination of all forms of malnutrition, with a particular

---

<sup>1</sup> Burkina Faso, Ethiopia, Ghana, Kenya, Madagascar, Malawi, Mozambique, Nigeria, Senegal and Sudan. In May 5, Chad participated in the IFNA.

**focus undernutrition and the 200 million affected children in Africa.**

**Based on the discussion and declaration in the IFNA Side Event, AUDA-NEPAD and JICA, co-chair organizations of IFNA, plans to hold the Second IFNA Partner Meeting in March 2020 towards Africa where free of malnutrition.**

**Objective:**

The objectives of the Second IFNA Partners Meeting are:

- To share progress, good practices and approaches (e.g. Multi-sectoral approach, Nutrient Focused Approach)
- To inform the 3-year strategic direction - “scale up” IFNA implementation based on the decision at TICAD 7 – expansion of IFNA implementation to all African governments through advocacy, capacity development and implementation on the ground through broadening collaboration;
- To bring opportunity for African governments to join IFNA to address and fight against all forms of malnutrition; aware of and in the context of the Tokyo Nutrition for Growth (N4G) Summit 2020.

**Expected outcome:**

Through the Second IFNA Partners Meeting:

1. The participants are expected to have clear understanding on IFNA’s implementation processes, approaches and potential benefit through sharing lessons learned last three years;
2. More African governments to express their interest in partnering with IFNA through understanding its strategic directions and opportunities for achievement of nutrition outcomes.
3. Shared ideas on anticipated N4G contribution to Africa’s nutrition agenda.

**Expected participants:**

The expected participants are from African governments such as SUN and CAADP Country Focal, and/or a government official who is responsible for coordination on food and nutrition security issues, development partners such as UN agencies, international organisations, research institutions, civil society organisations and private corporations. Representation from the Embassies and Liaison offices in Addis Ababa is expected as well.

**Program (Provisional):**

**Day 1 (Wednesday, March 4): LESSONS LEARNED – what IFNA has done so far?**

<b>Time</b>	<b>Activity</b>	<b>Responsible</b>
08:00-08:30	Registration	All
08:30-09:30	Official Opening / Opening remarks	
09:30-09:45	Group photo	All
09:45-10:00	Press conference	
10:00-10:15	Health break	
10:15-10:45	AU's Policy Framework on nutrition - AUDA Nutrition and Food Systems Implementation Plan	AUDA
10:45-11:15	Introduction and update of IFNA	IFNA Secretariat
11:15-11:45	Technical update	JICA
11:45-13:00	Presentation by countries – Good practices and challenges through IFNA implementation	Country reps
13:00-14:00	Lunch	-
14:00-15:30	Group work – Good practices and challenges in African countries – referencing to “Seven Principle for multisectoral nutrition improvement”	All
15:30-16:45	Reporting session	
16:45-17:00	Wrap up of Day 1	

**Day 2 (Thursday, March 5): WAY FORWARD – what needs to be done from now?**

<b>Time</b>	<b>Activity</b>	<b>Responsible</b>
08:30-08:45	Recap of Day 1	County rep
08:45-09:45	Presentation by partners – Good practices, strategy and potential collaborations and alignment	IFNA Secretariat
09:45-10:30	IFNA's Strategic direction for next 3 years	
10:30-11:00	Health break	-
11:00-12:30	Panel discussion – What needs to be done? Opportunities through IFNA implementation for the next 3 years	

12:30-13:15	Wrap up and call for actions	
13:15-13:30	Closing remarks	
13:30	Dismission & lunch	

End



